

1月24日 なかのZERO

キューバ革命50年・ゲバラ生誕80年記念フォーラム

魅力的なプログラムが目白押し！ ふるってご参加を！

キューバ革命が成立したのは1959年1月1日でした。したがって、2009年1月1日でキューバ革命50年を迎えます。また、今年2008年はキューバ革命の英雄チェ・ゲバラの生誕80年にあたりました。

これを記念して、キューバ友好円卓会議は、キューバ革命の意義や、革命50年にして到達した成果を明らかにし、さらにこの国のこれからを展望するフォーラムを2009年1月24日(土)の午後から夜にかけて、東京・中野区の「なかのZERO」小ホールで開きます。

詳しくは別紙(チラシ)をご覧ください。午後の第1部ではキューバとの関わりが深い4人の著名人がキューバ革命の意義、キューバの現状、世界の人々を引きつけてやまないキューバの魅力、キューバが国際社会で果たしている役割と貢献などについて語ります。

夜の第2部では、長年の友好活動によりキューバ政府から文化功労賞や連帯大勲章を受章したギタリスト・歌手のアントニオ・古賀さんの演奏や、在日キューバミュージシャンの演奏を楽しんでいただきます。キューバ人のインストラクターらの指導でサルサを踊るプログラムもあります。

円卓会議としては、このフォーラムを、この夏にキューバを襲った巨大ハリケーンによる被害への救援に役立てたいと考えています。収益金が出れば、その一部を災害にあったキューバの人たちに贈ります。

キューバに関心をもつ周りの方々に誘ってご参加いただければ幸いです。心からみなさんのご参加をお待ちしています。なお、同封の案内チラシをご希望の方は、枚数と送付先を円卓会議(FAX 03-3415-9292)までご連絡ください。お届けします。

(岩垂 弘)

『父ゲバラとともに、勝利の日まで —アレイダ・ゲバラの2週間』

(星野弥生 編著・訳 同時代社刊 1800円)

2009年1月1日のキューバ革命記念日に間に合わせるべく、突貫工事で、アレイダ・ゲバラさんの講演録を作りました。2週間、彼女の傍らで講演の通訳をしながら、「この言葉をできるだけ多くの日本人のたち、とくに若い人たちに伝えたい」と、ジリジリと思っていた気持ちが本という形になった、ということです。後からああ訳せばよかった、これを抜かした、と後悔しきりの通訳の懺悔録でもあります。いい材料をいただいて、ただ料理をするだけでよかった私は幸運でした。蛇足に、アレイダさん日誌と、私のキューバとの因縁話が少々加わっていますが、それを抜かしてともかくアレイダさんの話を聴いていただけたらと思います。

もちろん、この本は招聘実行委員会、とりわけ円卓会議の仲間たちとアレイダさんとのコラボ作品です。キューバに関心を持つ周りの方々に広めていただけたら幸いです。

戸井十月さんがすてきな推薦の言葉を寄せてくださいました。「何より前に、他人の痛みがわかる人間であれと言いつづけたゲバラ。その娘、アレイダは、父の遺志を体現するように強くて、包容力に満ちた女性だった」

(星野弥生)

チェの映画、二部作が1月10日から公開！ 必見！

革命50周年にふさわしい、大変な映画が出来てしまいました。一部は「チェ 28歳の革命」、二部は「チェ 39歳 別れの手紙」(公式サイト <http://che.gyao.jp/>)。二本あわせて4時間半という大作ですが、絶対に飽きない！ なにせ、世界で最もカッコいい、「本気で世界を変えようとした男」の話なので。一部は、エルネスト・ゲバラがメキシコでフィデルと出会って、グランマ号でキューバに向かい、シェラ・マエストラから革命を進めていく過程の話。二部は、「ボリビア日記」をベースにした、チェがキューバを後にしてボリビアでゲリラ活動をしながらかたがた殺されるまでの話。プロデューサーでもありチェを熱演しているベニチオ・デル・トロがゲバラそのものの迫力で圧倒されます。観ながら、アレイダさんの話がオーバーラップします。ラテンアメリカの解放を夢見て、それをキューバ実現させていった若者。でもターゲットはラテンアメリカ全土。だからボリビアに赴き、ここから抑圧されている人民の生活を変えるべく闘った男。その闘いは、ゲバラ自身の死で終わったわけではなく、ラテンアメリカでチェが渴望していたものが今実現しているという状況に、地下水のようにチェの思いが伝わっていることを感じます。

アスタ・ラ・ビクトリア・シエンプレ！ 私は、2回観ましたが、観たあとに「ほんとにそうだよなあ」と実感できる言葉です。絶対見て下さい！ 1月10日から日劇PLEX(有楽町)他、全国240か所で同時公開。

(星野弥生)

★ポレポレ東中野で1月10日～「チェ・ゲバラ —人々のために—」 レイトショー(21:00～)上映